

それでは、私がこれまでにやってみた「出会いの演出」を紹介します。

☆大きな声であいさつ

初日は大きな声であいさつをします。もちろん、満面の笑顔で…。このあいさつが心を開くことにつながるのです。教師自らから、「この学級は素晴らしいところだ」という雰囲気を作っていくことが大事なのです。

☆アイメッセージ～夢を語る

子どもたちに「アイメッセージ」を送ります。これは、教師自身の思い（夢）を語ることです。「わたしは～をやりたい」「わたしの考えは～である」など。このことによって、子どもたちの学級生活への期待感が高まっていくのです。

具体的には次の2つについて語ります。

*子どもたちは教師を選ぶことはできません。そこで、私は、子どもたちには「一人ひとりに一人の人間として接していく」ことを告げることにしています。さらに、そのためには、「自分たちの力で学級を作っていく」ことの大切さを述べます。「この学級は自分たちのものだ」ということを感じさせたいものです。具体的には組織づくりの大切さにつながっていきます。

*宿題というものは、与えられたものをそつなくこなす力を育てるもの。これは、子どもたちに主体的な力を育てようとする場合に大きな壁となります。そこで、宿題だけに頼らない自主学習のすすめを訴えます。ただし、この場合には、しっかりとアフターケアをしていかないと、怠け癖を増大させる結果になりますので、要注意です。

☆スナップ写真

一人ずつ子どもの写真を撮ります。最近はデジタルカメラという優れたものがありますので、それを使うと便利です。その写真はその日のうちにプリントアウトし、子どもたちが書いたプロフィールカードに貼らせることにしています。そのカードには、「どんなクラスにしたいか」「どんなことをがんばりたいか」などの項目を書かせ、教室に掲示します。この写真は、ネームカードにも使用できます。

☆元気の出る歌

「よし、みんなでがんばるぞ」という思いが伝わる歌を歌います。既成の歌でもいいし、替え歌でもいいです。雰囲気が盛り上がる方がいいです。みんなで声を出すことは、心を解放することにつながるのです。このことから、学級の歌を作ろうという雰囲気を作り出すことができればグッドですね！

☆学級のめあて

子どもたちの「どんなクラスにしたいか」という願いを集約して、学級目標を作ります。めあては、前面の黒板の上に貼ることが多いですが、教室の飾りにならないようにし、子どもたちが常に意識できるような工夫を考えたいです。また、集団として守るべきこともめあての一つとして語ることにしています。

☆ちょっとしたゲーム

短い時間でできるゲームなどで、自然のうちに友だちとふれあう、友だちと相談し合うなどの活動が入ったゲームを仕組みます。この布石は、子どもたちの人間関係をよくしていくのと同時に、“学級で楽しいことができる”という期待感を

高めることができます。

☆作文を書かせます。

始業式の日には作文を書かせます。第一印象作文といいます。先生の第一印象、学級の第一印象を書かせるわけです。その作文によって、学級や先生に対しての子どもたちの願いを探ることができます。

2 第11回希望の会in山口, 山口学級活動ネットワーク冬の学習会報告 その5

冬の学習会, 午後の部では, 「希望の会」が大事にしてきた「参加者が語り合う」というやり方でワークショップを行いました。

ここでは参加者に12のグループに分かれてもらって, それぞれに課題を与え, 話し合ってもらいました。

話し合ったことをまとめたものは, 山口学級活動ネットワークのホームページもしくは, 希望の会のホームページに掲載していますので, そちらをご覧ください。

ここでは, 4回に分けて, 12の課題と話し合いの結果から見えてきたことを紹介しておきます。

実践上の課題(1)

学級活動の活動内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」に, 「清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」を加えられました。キャリア教育の視点から, その役割と働くことの意義の理解をさせる「清掃」「当番活動」の指導はどのように行えばいいでしょうか。

この話し合いから, 「望ましい勤労観や職業観を育てる」ために, みんなが気持ちよく過ごせる場所を確保することと, それぞれが誰かの役に立っていることを自覚させることが大切ではないか, ということが見えてきたように思います。特に「与えられた役割を果たす」だけという消極的な活動にとどまらないように, 掃除や当番活動への意欲を高めることが大切であることも見えてきたようです。

実践上の課題(2)

「よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動」とはどのような活動なのか, また, その活動を充実させるには, どのような指導を行えばよいのでしょうか。

この話し合いから, 「集団として意見をまとめる話し合い活動」を成立させるためには, その基盤としての学級づくり(支持的風土)が必要であることが確認できたようです。これは, 今回の改訂で重視されている「人間関係づくり」がポイントとなるということです。また, 話し合いを進めるための過程をしっかりと身に付けさせることや計画委員会の活動

をとおして、見通しをもつことの大切さも意見として出されました。

実践上の課題（3）

「自分たちできまりをつくって守る活動」とはどのような活動なのか、また、その活動を充実させるには、どのような指導を行えばよいのでしょうか。

この話合いでは、「自分たちでつくるきまり」とはどういうものを想定して行われました。学級活動、児童会活動、クラブ活動という3つの場面ごとに意見交換がなされ、指導のポイントとして、「集団における自由な意見交換ができる雰囲気づくり」が大切であるということと、きまりづくりは「よりよい生活づくり」をめざして行われなければならないという意見が出されたようです。

4 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第76号は5月中旬ごろ発行予定です。

次号も、第一特集は「元気が出る学級づくり」について、第二特集では「冬の学習会」についてお知らせします。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は240名です。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。こんな内容について書いて欲しい。こういう情報が欲しい、ということをお知らせください。

sugi-net@c-able.ne.jp

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。学級づくりの実践を広げ、共有していきましょう。

本メールマガジンでは、次のようなテーマで情報交換を行ってみようと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

*こんな時、どうする？コーナー

学級での生活の中でのいろいろな場面を想定し、その時、どういう手立てをうてばよいか、についての実践を紹介してください。これまでに取り組まれたことのある実践もお待ちしています。

*学級づくりで、はっ！とさせられたこと

長く学級担任をやっていると、自分のやり方が当たり前になってしまっていることに気づかされることがあります。それを教えてくれるのが子どもたちだったりします。そういう出来事や子どもたちのつぶやきを紹介してください。

*子どもってすごいなあ！と思ったこと

子どもがもっているものって素晴らしいです。子どもたちといると、「子どもってすごいなあ」と感心させられることが多々あります。子どもたちのそういう姿を紹介し合いませんか。

みなさんも、ぜひ以下のアドレスまでよろしくお願いします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（下関市立名池小）

津村元文（美祢市立伊佐小）

吉田哲朗（山口大学教育学部附属山口小）

西田智行（下関市立垢田小）

=====